

校訓に関する協議概要（令和7年度第6回総務部会記録より）

1 校訓検討の基本的な考え方

事務局より、新中学校の校訓について説明。校訓は、学校が目指す教育の理念や生徒像を象徴的な言葉で表したものであり、新中学校においても基本計画で定めた「目指す学校像」や「目指す生徒像」を基礎として検討したいとの考えを示す。

校訓の形式については、一文字の漢字を並べるもの、二字熟語を並べるもの、一つの言葉で表すものなど様々であり、特に決まった形はないことを説明

2 委員からの主な意見

- ・校訓は生徒に分かりやすく、親しみやすい言葉が望ましい。
- ・辞書に載っていない造語よりも、意味が理解しやすい言葉の方がよいのではないか。
- ・「挑戦」「協同」「尊重」など、生徒像をそのまま表現する方法も考えられる。
- ・一文字を四つ並べるより、二字熟語を三つ並べる方が校訓らしく、覚えやすいのではないか。
- ・「共創」「敬愛」は比較的受け入れやすい印象がある。
- ・「挑志」は意味は理解できるものの、聞き慣れないため別の表現も検討できるのではないか。
- ・「立志」は志を立てる意味が明確で好ましい。
- ・子どもたちが見たり聞いたりした時に、イメージしやすい言葉が望ましい。

また、校訓は学校運営の根幹に関わる重要な言葉であるため、準備委員会だけでなく教育委員会など幅広い意見を踏まえて決定すべきとの考えも示された。

3 今後の進め方

今後は、「目指す生徒像」を基本としながら検討すること、二字熟語を三つ程度組み合わせる形も有力な方向性として考えることを確認した。